

13. 脳血流シンチグラフィで異常所見を認めた福山型筋ジストロフィー症の 2 例

星 博昭 二見 繁美 陣之内正史
 長町 茂樹 大西 隆 渡辺 克司
 (宮崎医大・放)
 松木 和彦 (国療宮崎東・放)
 仲地 剛 吉原 明子 (同・小児)
 井上謙次郎 (同・内)

福山型筋ジストロフィー症は骨格筋の変性とともに知能障害を伴うことを特徴とする先天性筋ジストロフィー症の一型であるが、脳血流シンチグラフィの報告は少ない。今回、福山型筋ジストロフィー症に脳血流シンチグラフィを行い検討した。使用した装置は島津製ガンマカメラ ZLC7500、放射性医薬品は、Tc-99m HM-PAO である。脳血流検査の結果、2 例とも後頭葉、高位前頭葉に血流低下を認めた。文献的には MRI でもこの領域の白質病変が指摘されており、本症例に特徴的な所見の可能性があると思われた。

14. 脳血流定量の補正について

——CO₂ 分圧の要因——

木下 博史 藤原 一美 齊藤 匠司
 計屋 慧實 林 邦昭 (長崎大・放)

われわれは Kuhl らの提唱した末梢動脈持続採血 IMP-SPECT 脳血流定量を行って来た。各種脳疾患 119 症例で測定された脳血流値とその時の動脈血中炭酸ガス分圧 (=CO₂) をもとに、相関行列による主成分分析を行うと、成分 2 は 20% 程の寄与率で CO₂ と思われた。この影響を最も小さくするのは、CO₂ 1 mmHg 当り 3.5% 補正すれば良い事が判った。

次に、各種脳疾患 39 例で検査中の CO₂ 変動について検討した。終末呼気 CO₂ は動脈血中 CO₂ とほとんど同じである事を利用し、呼気ガスをモニタした。IMP 静注による変動は 7 例で有意差 (p<0.01) が見られた。全体の平均では 0.44 mmHg 低下した。これは前述の 3.5% 補正では 1.54% に相当する。標準偏差 (6) の 2 倍は 2.48 mmHg (8.6%)、最大の偏位は 3 mmHg (10.5%) の低下であった。

15. 各種脳血管障害に対する Acetazolamide 負荷 I-123 IMP 脳血流シンチグラフィの評価

石野 洋一 村上 稔 塩崎 宏
 中田 肇 (産業医大・放)

Acetazolamide 負荷を脳血流シンチグラフィに応用し、各種脳血管障害における脳循環予備能の評価を行った。対象はモヤモヤ病 3 例、AVM 3 例、その他の虚血性脳疾患 (脳梗塞、TIA 等) 3 例の合計 9 例で、それぞれほぼ同時期に負荷前後 2 回の SPECT を施行して比較検討した。負荷後の SPECT では、大脳皮質、深部灰白質とも虚血領域は健常部に対してより明瞭にコントラスト良く描出されることが多く、さらに負荷前の検査では不明瞭であった低血流域や、遠隔効果としての crossed cerebellar diaschisis が明らかになった症例もあり、Acetazolamide 負荷は脳循環予備能の評価に有用と思われた。

16. 虚血性心疾患における Tc-99m-MIBI 心筋 SPECT の有用性——TI-201 心筋 SPECT との比較——

大塚 誠 一矢 有一 桑原 康雄
 吉開 友則 福村 利光 増田 康治
 (九大・放)
 牧角 和宏 津田 泰夫 (同・内)

対象は虚血性心疾患 10 例で、Tc-99m-MIBI による運動負荷時および安静時検査を行い、TI-201 による運動負荷直後像および遅延像と比較した。MIBI 像の画質は短かい撮像時間にもかかわらず、全例で TI と同程度かやや鮮明であった。肝への集積のため下後壁が判定不能であった例が安静時 30 分後像に 1 例みられたが、4 時間後像では支障なく、投与後ある程度時間をおいて撮像するのが良いようであった。MIBI 運動負荷像では全例で梗塞部または虚血部と思われる欠損が描出され、TI 運動負荷直後像とよく一致した。MIBI 安静像ではそれらの欠損部のうち 5 例 12 部位に集積がみられ、TI 遅延像とおおむねよく一致したが、両者の不一致例が 2 例みられた。